

# 住民自治協議会だより 第18号

発行 小田切地区住民自治協議会

〒380-0876  
長野市大字山田中2545

TEL026-229-1511 FAX026-229-2074  
E-mail otagiri-jitikyou@ngn.janis.or.jp

## 平成29年度 住民自治協議会総会 平成29年4月21日開催

### 総務・安全防災部会

- ・各区自主防災訓練の実施
- ・やまざと支援交付金事業の実施
- ・地域間交流事業の実施、三地区交流会への参加
- ・地域おこし協力隊との協働
- ・住自協だより発行
- ・地域活性化、観光事業推進  
富士の塔遊歩道の整備、小田切PR事業など

### 福祉・健康部会

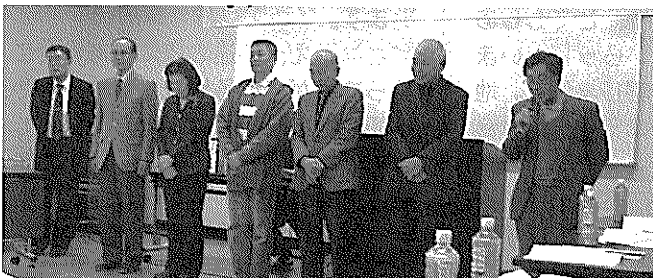
- ・小田切地区地域福祉活動計画の実践
- ・福祉委員会による各種事業の実施  
福祉委員の研修、喜寿の祝、サロン事業など
- ・地区健康保健活動の実施

### 環境・地域活性化部会

- ・環境整備・美化活動の推進やゴミ集積所の整備
- ・農作物の有害鳥獣対策、遊休農地の活性化対策

### 教育・文化部会

- ・公民館連携による各種行事の事業推進
- ・人権教育による啓発活動や明るい社会運動住民集会
- ・文化財の保存、継承活動の支援



### 一般会計収支予算

#### <収入>

公的補助金	交付金	5,318,000
	補助金等	1,740,000
負担金	各区負担金等	1,278,000
雑収入	寄付金等	164,402
繰越金	前年度繰越	1,169,598
収入合計		9,670,000円

#### <支出>

事業費	総務・安全防災部会	1,212,000
	福祉・健康部会	2,420,000
	環境・地域活性化部会	317,000
	教育・文化部会	1,298,000
運営費	事務局費	3,682,000
配分・委託費	各区配分・団体補助等	353,000
繰出金	福祉自動車	50,000
予備費		338,000
積立金		0
支出合計		9,670,000円

### 人事異動

#### 転入

小田切支所主査 (鬼無里支所主査) 戸谷 恵利  
小田切公民館係長 (古牧公民館係長) 佐藤 重光

#### 新任

小田切住民自治協議会  
地域福祉ワーカー 大日方清美  
ふれあい交流ひろば 山口 豊

#### 退職

小田切支所 平林 洋一 (主査)  
小田切公民館 友田 一則 (係長)  
小田切住民自治協議会  
長田 正彦 (地域活性化推進員)  
西山一二美 (地域福祉ワーカー) 9月  
ふれあい交流ひろば  
宮尾 壽、鎌田 衛一

信州大学 28年度地域戦略  
プロフェッショナル・ゼミ  
『中山間地域の未来学Ⅲ』

小田切地区への  
事業提案

2月18日(土) 信州大学工学部信州科学技術総合振興センターで、小田切地区への事業提案「地域の未来へ いまできること」をテーマに一般公開講座が開催され、4班のグループより発表がありました。



Aグループ

『おやまのやぎさんち』プロジェクトに至るまで

A班 稲澤そし恵 (大町市)

◎小田切の印象

私は大町市の地域おこし協力隊で3年前、横浜から大町に移住してきた新参者だ。県内の地理に不案内で小田切について知っていることといえば「長野市に行くとき通るダムの名前」という程度に乏しかった。

だから国道から初めて山道に入り、駆け上がるように走ったときは感動した。公会堂や石仏があり、きれいに耕された畑が見える。美しい紅葉の中(初めての講座は10月22日だった)を抜け錬成センターまで登り切れば、別世界が広がっている。北アルプスのふもとの大町と違って山並みが優しい。遠くに蓮華岳が見える。広々とした美しい景色!そしてここには豊かな人の営みがある。みんな通り過ぎるだけだなんてモッタイナイ!と、自分を棚に上げ思っていた。

◎皆様への提案

その後、小田切までの道を何度か

通い、講座を通して集落のことを少しずつ学んでいった。それは歴史や文化から始まったが、徐々に別の面も知るようになった。閉校をきっかけとした地理的な分断、女性が参加しない合意形成の場、世代間の地域への温度差、住民と移住者との感覚の差など。

問題はあっても様々な事情から出不精になり、地域に無関心になっていく。そんな人も多いと聞いた。これは大町も変わらない。そして多分、日本中どここの地域も同じような悩みを持っている。

だからプロゼミA班で話し合ったのは「住民みんなが集まる“きっかけ”を考えたい」だった。でも既現場としては公民館があるし、今まで参加しなかった人はなかなか顔を出さないよね……。そこで登場するのがアニマルセラピー効果を狙った共有ペット、山羊だ。名付けて「おやまのやぎさんち」プロジェクト。

山羊なら飼ったことがある方もいるだろうし、除草もしてくれる。フンはたい肥として使えるし獣害も減るかもしれない。

いずれ山羊を増やして営利を求めてもいいが、まずは気軽に人が集まれ立ち話をできる“ゆるやかな動機”が欲しい。A班はそんな提案にまとまった(詳しくは5月27日の報告会の資料にて)。

◎講座を通して

私は今回のプロジェクトを大町に持ち帰るつもりだ。講座を通して考えたのは「誰がプレイヤーになるか」だ。動き出すのは貴方だし、私。不平を言っていないでも始まらない。ほんの少しいから動き出したい。これは私が日々自分に言い聞かせていることです。

最後に、場所の提供やお昼の準備など、住民の民さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

Bグループ

『小田切に暮らす人はなぜしあわせそうなのか?』  
しあわせ発見プロジェクト

B班 鈴木 和夫 (長野市)

本ゼミは、小田切地区について、急峻な地形の中での集落の形成、古民家の解析、先人からの民話の伝承、神様と養蚕や米づくり、先人の精神や冠婚葬祭などを学び次世代の中山間地域の今後の姿を考えるものでした。

青少年錬成センターでは、フィールドワークや講師の先生方の講演のほかに地元の方々からも地域の過去と現在について様々なお話をお聞きし圧巻は地域の野菜をふんだんに使った大変おいしい料理も頂き、体

と心の奥底から、小田切地区を知る事が出来た様に感じます。

そして、地元の方々と接している中で、小田切地区に暮らす人は、生き生きとされていますし、文化の継承による生活景の中で、とてもしあわせそうに暮らしていらっしゃいました。心の豊かさを感じました。地区集落ごとのコミュニティー助け合いも感じました。

そこで、われわれプロゼミⅢB班の小田切地区への提案として「小田切に暮らす人はなぜしあわせそうな

のか?」しあわせ発見プロジェクトの提案です。

小田切地区の30年前の人口は1,863名でしたが、ほぼ一世代を経て、平成28年には959名と半減しています。

とは言え、前述の様にしあわせに暮らす事ができる地域ですので、小田切の魅力を新しいかたちで発信しましょう。

■「小田切地区

しあわせ発見ツアー」の実施

里山に憧れている人、就農希望

者、地域活性化を学ぶ学生、小田切出身者で地元を離れた人などにまずは興味を持ってもらいましょう。

小田切のしあわせな魅力の発信の為に、訪れる人に、我々の様にこの地域を知ってもらおう。

地域の皆さんにお話を伺い、料理も一緒にいただく、山や空、田畑、

集落、建物、道の散策も、地域の事をお聞きしながら一緒に行う。

参加募集はSNSを活用。

小田切地区の良かったところをブログで発信してもらおう。

#### ■その他の提案

・訪れる人と住民も楽しみながらできるイベントの開催

・お茶のみサロンの整備、一般開放  
・大学の研究機関の誘致

旧小田切小中学校を校舎とする。学生寮として高齢者共同住宅への住み込み、高齢者からも学ぶ。畑作業、郷土料理も実践する。

◎グループ

### 「小田切寺子屋ゼミ」を提案

◎班 宮下 紘介 (長野市)

私達C班は小田切地区の皆様「小田切寺子屋ゼミ」を提案します。

小田切地区の皆様がおっしゃったのが「人がいない…」、「子ども達が少ない…」、「祭りに集まるのはいつも同じ顔ぶれ…」ということでした。

特に小田切小・中学校の閉校に伴って、若者や子ども達が市街地に出てしまったことが地域の活気がなくなった大きな要因だとおっしゃっていたことが印象的でした。

そこで、私達は小田切に多くの人に訪れてもらい賑わいを取り戻すための第一歩として、地区内外の人が集まれる場を作りたいと考え、今回の「小田切寺子屋ゼミ」の提案に至りました。

対象はまず小田切の麓に位置する加茂小学校、松ヶ丘小学校児童たち

とその保護者達とし、徐々に広げていきます。小田切の方を先生とし農作物作りから販売までを体験してもらいます。また、同時に小田切の魅力である景観の良さ、方言、言葉遊び、神様といった地域文化も教えてもらいます。子ども達にとっては社会体験・自然体験の場であると同時に小田切の魅力を体感する場になります。そして、子ども達がたくさん集まることで小田切が賑やかになり、また農地として休耕田を利用することにより、小田切の景観がさらに良くなるのが期待されます。

プロゼミを通じて小田切を訪れて、多くの地域文化が根付いていることに驚きました。現在もそのような文化が受け継がれている理由として、小田切の方々は先祖が大切に

してきたものを守ろうという気持ちが本当に強いからではないかと思いましたが、「水の行方」というテーマで、国見集落の水の流れを一枚の地図に描くという講座がありました。その際も市の水道が整備される前の時代に地域の皆で整備した貯水槽からの給水を未だに外での洗い物用の水に利用したり、浅間池からの水を農業用水に利用したりと、昔からあるものを大切にしようという気持ちがひしひしと伝わってきました。

派手なものはないけれども、どこか温かみのある小田切が私は大好きになりました。開講期間中、小田切の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

◎グループ

### 「小田切・農業インターンシップ」プラン

◎班 水谷 翔 (長野市)

2016年秋～2017年冬にかけて信州大学・プロフェッショナルゼミ(中山間地の未来学Ⅲ)におきまして、小田切地区にて学びを与えて頂き、誠にありがとうございました。

小田切地区と言いますと、一般的には長野市街地から車で約15分程度のアクセス良好な場所でありながらも、自然環境が豊富に存在している、そんな印象が多いかと思えます。実際、毎回の講座で足を運び、自然や事跡に触れる度に昔からの生活技法が今でも色濃く残っており、長い歴史を刻んできた地区という認識を強めました。

全国の中山間地は都市部への人口流出がここ数十年で増加し、危機的な状況を迎えているエリアが少なくありません。しかし、小田切地区には地域を輝かせるポテンシャルが無

数に眠っていると思われました。北アルプス・戸隠山・飯綱山・菅平高原等が見渡せる最高のロケーションスポット、高原野菜栽培地などの天然環境の資源、年間を通じて複数開催されるお祭りやしめ縄作りなど、特に都市部で長く生活をしている人達にとっては魅力的に映らないはずが無い人々の生活技法・知恵といった面の資源の数々に触れました。

私達D班はこうした魅力をどのように地域活性に結びつけていけば良いかを考えた時、若い世代、特に農に関心が深い学生にアピールしていく「小田切・農業インターンシップ」プランを練りました。一般的に農業を学ぶ学生というと、用意される現場(圃場)は既に区画整備や水環境が綺麗に整備された平坦な環境であることが多いと思われま

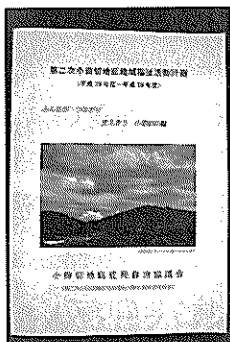
し、中山間地の農業は斜面地であったり、真四角な圃場という方が稀かと思えます。そして、水環境。傾斜集落は水がコントロールしやすい利点があり、流れる水を活用しやすく、営みが栄えたという点は感動的でした。

これはホンの一例ですが、農業を学ぶ学生にとっては、何もかもが新鮮で驚きの連続ではないか、そう思われました。そんな感動を幾つも提供できれば、小田切地区の方々にとっても新しい風と流れが発生し、好循環を生み出せるのではないかと、そういう気持ちでプランを作らせて頂きました。

今回の講座を機に小田切地区の魅力を存分に知ることが出来ました。本当にありがとうございました。

## 第2次小田切地区地域福祉活動計画 策定

平成29年度～33年度版が策定され全戸配布しました。第2次計画では、小田切地区にどのような福祉が必要なのかをより鮮明にしました。一気に高齢化の道を歩んでいるこの地区で、幸せに生きていくために「助けあい」事業をどう作るかを明確に、「人と人が仲良くつながる」を重点にしました。



～みんながつながり 支えあふ 小田切の輪～

## 富士の塔遊歩道の整備

錬成センター側から登る富士の塔遊歩道整備を4月20日、小田切地区住民と住自協役員、錬成センター職員の15名が参加して行いました。好天にも恵まれ、倒木や雪で崩れた箇所を整備、歩道に飛び出た枝や木の根除去など安全確保を行い、全線が整備されました。



## 長野翔和学園卒業生の就労支援へ協力会発足

小田切を活動拠点としている長野翔和学園で1期生が卒業し、ワークセンター長野翔和が開所しました。今まで小田切で活動している経過から、「就労移行支援事業」を地域で協力しようと、錬成センターを事務局に支援・応援する住民の会を発足させました。農作業関連の指導や定住宿舎確保などの提供を考えます。



喜寿祝賀会 対象者17名 11名参加



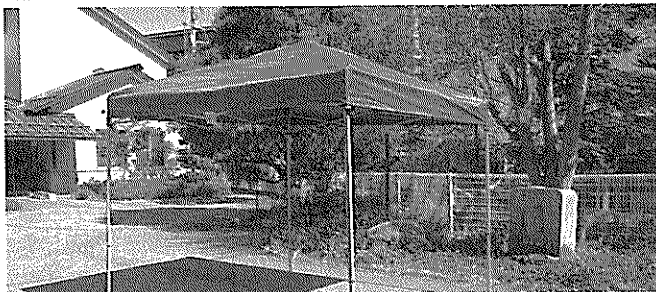
3月3日 杏泉閣

NPO「小田切オアシス」第二市民菜園



4月28日 開園式

簡易テント購入



住自協役員用  
防災ベスト、  
ヘルメット



やまびこ

新緑の季節となりました。今冬の雪はそれほど多くなく感じましたが、集中した降雪と気温が低かった冬で、雪解けが遅くなり農作物の育成などに遅れを感じています。

信大のプロゼミ「小田切地区への事業提案」を載せましたが、小田切地区内でも実施報告会が5月27日(土)に小田切公民館で開かれます。